

## 7 北海道の課題と課題解決の方策

「1 平均正答率の推移」から「6 上位県（秋田県）との比較」までの分析において、学習習慣・生活習慣及び授業改善にかかわる北海道の課題がより一層明確になりました。これらの課題を解決するためには、学校、家庭、地域、行政が、それぞれの役割を確実に果たし、一体となって学力向上の取組を進めることが大切です。

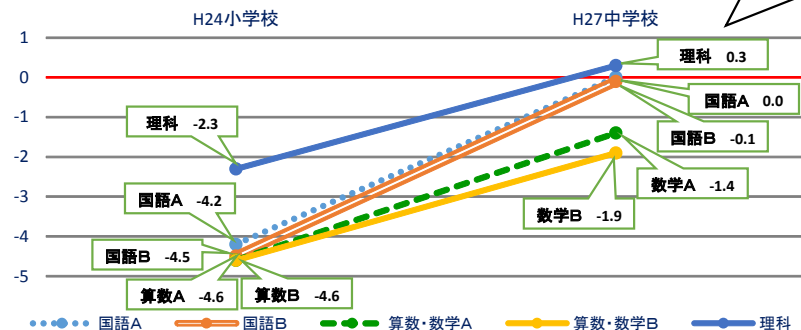
| 授業改善にかかわる北海道の課題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 課題解決の方策                                  | 具体方策等掲載箇所             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------|
| <b>■ 各教科の課題（小・中学校共通）</b><br>・漢字や四則計算、記述式の解答など、過去の調査で見られた課題について、依然として課題が見られる。<br><b>■ 授業の冒頭と終末の活動（小・中学校共通）</b><br>・授業の冒頭で学習の目標を示す活動を計画的に「よく行った」学校が、全国に比べて少ない。<br>・授業の最後に学習を振り返る活動を計画的に「よく行った」学校が、全国に比べると多いが、秋田県と比べると少ない。<br>・授業で扱うノートに学習の目標（めあて、ねらい）とまとめを書く指導を「よく行った」学校が、全国に比べると多いが、秋田県と比べると少ない。<br><b>■ 教員と児童生徒の意識（小・中学校共通）</b><br>・授業の冒頭で目標を示したり、振り返ったりする活動について、学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の差が大きい。 | ○全国学力・学習状況調査を活用した検証改善サイクルを一層確かなものとする。    | NO. 1-1<br>(26頁)      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ○授業の冒頭で示す目標（めあて、ねらい）を工夫する。               | NO. 1-2<br>(27頁)      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ○授業の最後に、児童生徒自身が振り返る活動を必ず位置付ける。           | NO. 1-3<br>(28頁)      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ○全国学力・学習状況調査を活用した授業改善を促進する。              | NO. 1-4～5<br>(29～30頁) |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ○市町村教育委員会では、教員研修や調査結果の分析等を組織的に行う体制を確立する。 | NO. 2-1～3<br>(32～34頁) |

| 学習習慣・生活習慣にかかわる北海道の課題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 課題解決の方策                                                                    | 具体方策等掲載箇所             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| <b>■ 家庭学習の時間（小・中学校共通）</b><br>・「普段1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒が、全国に比べて少ない。<br><b>■ 家庭学習の内容（小・中学校共通）</b><br>・「宿題をしている」児童生徒は、全国や秋田県と大きな差はないが、「自分で計画を立てて勉強する」、「予習や復習をしている」児童生徒は、秋田県と比べると大きな差があり、宿題以外の学習に取り組んでいない状況が見られる。<br><b>■ 宿題</b><br>・国語、算数の宿題を「よく与えている」小学校は、全国や秋田県と大きな差はないが、理科の宿題を「よく与えている」小学校は、秋田県と比べると大きな差がある。<br><b>■ 家庭学習の指導（小・中学校共通）</b><br>・家庭での学習方法を具体例を示しながら「よく教えた」学校が、秋田県に比べて少ない。 | ○学校、家庭、地域、行政が、本道の児童生徒の学習習慣・生活習慣に関する課題を共有する。                                | NO. 3-1～2<br>(35～38頁) |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○学校では、宿題を出す内容や分量をより一層工夫するとともに、家庭学習の意欲を高める指導や、具体例を示しながら学習方法を身に付けさせる指導を工夫する。 | NO. 1-6<br>(31頁)      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○家庭では子どもの発達の段階に応じたかわり方をして、家庭学習の習慣化を図る。                                     | NO. 4-1<br>(39～40頁)   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○市町村教育委員会では、地域の教育力を活用し、学習サポートの機会を設定するなど、学校や家庭を支援する。                        | NO. 2-1～3<br>(32～34頁) |

# 北海道の子どもたちの力をさらに伸ばすために！

北海道教育委員会

## 北海道の子どもたちの可能性！



### 【検証と改善が成果として現れてきています】

平成27年度の中学校第3学年の調査結果と平成24年度小学校第6学年の調査結果を比べると大きく改善しており、同じ子どもたちの力が伸びてきていることが明らかになりました。

また、小学校、中学校共に、平成23年度以降、多くの学校が長期休業中の補充学習に取り組んでいます。

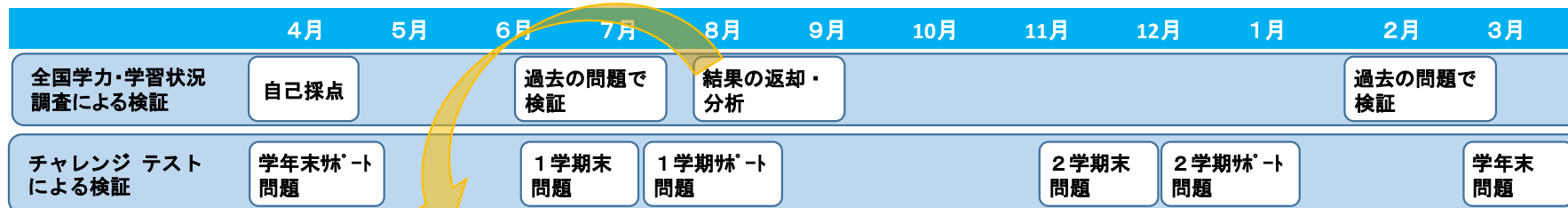
各学校が全国学力・学習状況調査の結果を検証し、小学校では6年間で小学校段階の学力を身に付けさせる取組の改善を進め、中学校では、小学校での子どもたちの学びを踏まえ、さらに学力向上の取組を進めてきたことにより、子どもたちが力を発揮してきていると考えられます。

### 長期休業中に 補充学習を行った学校

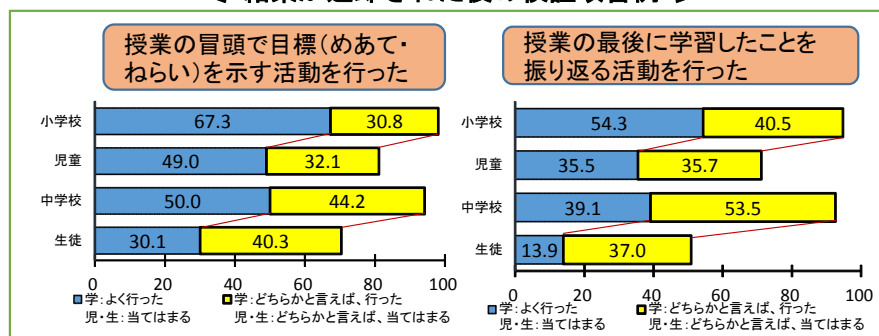


## ① 全国学力・学習状況調査を活用した検証改善サイクルを一層確かなものとする！

全国学力・学習状況調査やチャレンジテストを活用し、年間の中で繰り返し学習内容の定着状況を検証し、指導の改善に生かしましょう。



### 〔結果が返却された後の検証改善例〕



全国や全道の結果から、学校と児童生徒の意識に差があることが明らかになったことから、全教員と全学年の児童を対象に同様のアンケートを実施し、自校の取組を検証するとともに、全ての授業で次のことを徹底することにしました。

### 授業の冒頭で目標を示す

- 学習課題(目標)の明確な提示
- 見通しをもたせる工夫
- ノートに目標を書かせる指導

### 授業の最後に振り返り

- 定着を図る振り返り(まとめ)の実施
- 学習課題(目標)に正対した振り返り
- ノートにまとめ等を書かせる指導

## ② 授業改善～授業の冒頭で目標（ねらい・めあて）を示す〔国語〕

### 【国語科の授業でみられる課題】

- ① ねらいや身に付ける力などが曖昧な学習活動が展開されている。
- ② 本時の最後に何ができるか、子どもが見通しをもたないまま学習している。



単元や一単位時間の冒頭で、子どもに見通しをもたせ、主体的な学習活動を展開できるよう、目標を達成するための「学習課題」を工夫しましょう。

### 授業改善のポイント

#### 目標達成に向けた 学習課題の工夫

##### 【学習課題を明確にするために】

- 指導事項や身に付ける力を踏まえた学習課題
- 言語意識（相手・目的・場面・方法・評価）を高める学習課題

（例）小学校第3学年における文学的な文章の指導

【ありがちな課題】 ▲登場人物の気持ちを考えよう。

#### 課題の改善

##### 【単元の課題例】

「お薦めの本発表会」で、2年生に好きな登場人物を紹介しよう。

##### 【一単位時間の課題例（一部）】

- 「モチモチの木」を読み、好きな豆太の行動や会話を選び、その理由をまとめよう。
- 自分が選んだ豆太の行動や会話が好きな理由をはっきりさせて、友達に紹介しよう。
- 2年生が面白そうと感じるように、伝え方を工夫して、好きな本の登場人物のことを紹介しよう。

#### 見通しをもたせる工夫

- ・ 単元全体の流れを子どもがイメージできるようにする。
- ・ 考え方や活動の手順、方法、形態、時間やゴールなどの見通しをもたせるようにする。

（例）ブックトークのモデルを示し、好きな場面の選び方、紹介の仕方を学ぶ場を設ける。

### ③ 授業改善～授業の最後に振り返る活動を必ず位置付ける〔算数・数学〕

#### 【算数・数学科の授業でみられる課題】

- ① 子どもの活動や教師の説明に時間がかかり、定着を図る練習問題が行われない。
- ② 理解の早い一部の子どもを中心に授業が進められ、理解や定着が不十分なままの子どもがいる。

授業の終わりのまとめや振り返りの場面で練習問題に取り組ませ、  
すべての子どもに学習内容を確実に身に付ける授業を展開しましょう。

#### 練習問題の設定

- 評価の観点に即した練習問題を位置付ける。
- 練習問題に取り組む時間を確保する。

評価の観点によって位置付ける練習問題を変える。

「数学的な(見方や)考え方」

- ・考え方を説明する問題など

「数量や図形についての技能(数学的な技能)」

- ・計算する問題や作図する問題など

「数量や図形(など)についての知識・理解」

- ・意味を書く問題、正しいものを選ぶ問題など

必ず練習問題に取り組ませる時間を確保できるよう、「導入」、「展開」、「終末」の時間配分を考える。

#### 定着を一層確かにする工夫

- ・練習問題に取り組ませる際に、「複数の考え方で問題を解く」、「問題を解いたあとに、解き方や考え方を説明し合う」などの場面を設定する。
- ・練習問題から学習内容の定着状況や一人一人の子どものつまづきを把握し、指導に生かす。
- ・授業と連動させた宿題を提示したり、家庭学習の取り組み方を指導したりする。



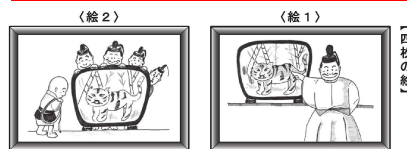
## ④-1 全国学力・学習状況調査（国語）を活用した授業改善を促進する！

### 全国学力・学習状況調査

- ◆ 調査問題は、学習指導要領に示されている内容を「問題」として具体化したもの
- ◆ 授業の中で、目標の実現のために展開される言語活動を想定して作成されている

### 調査問題の活用

#### ① 平成27年度調査問題＜小学校国語B＞



【びょうぶのたらのお話】  
一休さんと、このさまのお話です。  
このさまは、とんちで有名な一休さんを少し困らせてみようと思ひ、一休さんをおやしきと呼びました。そして、「これこれ一休。たのみたいことがあるが、聞いてはくれぬか。」  
「はい、なんでもしよう。」  
このさまは、おそろしいとらの絵がかいてあるびょうぶを指さして、「実は、このとらじや。毎晩飛び出しては、やしきの中を暴れ回るのだ。一休、このとらを暴れぬように、しぼりあげてはくれぬか。」  
と言いました。  
(以下、省略)

#### 授業改善のメッセージ

国語の指導では、この問題のように、目的意識（紙芝居）、相手意識（1年生）、場面意識（読み聞かせ）、方法意識（どのように伝えるか）、評価意識（効果的に伝わっているか）の5つの言語意識を明確にした言語活動を展開することが大切です。

#### ② 平成27年度調査問題＜中学校国語A＞

3 石川さんは、調べた言葉についてスピーチをします。次は、リハーサルの様子の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（ ）の中は、頭の中で考えていることを表します。）

場面①

私は、「さじ加減」という言葉を調べました。さじ加減は、ものさしのことですが、料理などで、大さじ、小さじという量を測うときに使います。さじ加減は、大さじ、小さじのことです。料理などで、大さじ、小さじという量を測うときに使います。さじ加減は、大さじ、小さじのことです。料理などで、大さじ、小さじという量を測うときに使います。

場面②

石川さんは、場面①で聞き手の反応を見て、場面②のような対応をしました。石川さんがとった対応として最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

1 石川さんは、場面①で聞き手の反応を見て、場面②のような対応をしました。石川さんがとった対応として最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

2 石川さんは、場面①で聞き手の反応を見て、場面②のような対応をしました。石川さんがとった対応として最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

3 石川さんは、場面①で聞き手の反応を見て、場面②のような対応をしました。石川さんがとった対応として最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

4 石川さんは、場面①で聞き手の反応を見て、場面②のような対応をしました。石川さんがとった対応として最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

説明が必要だと感じたことを一部省略した。  
聞き手の理解が得られるまで同じことを何度も繰り返した。  
聞き手の理解を確認するために問いかけた。  
説明が必要だと感じた言葉について補足をした。

#### 授業改善のメッセージ

例えば、スピーチの指導では、「相手に分かりやすく伝えよう。」など、抽象的な発問や指示が多く見られます。しかし、生徒にとっては、どうすれば分かりやすくなるのか不明です。相手の反応を踏まえて話すことができるようにすることを目標とした授業では、この問題の選択肢を参考にして、「省略する」「繰り返す」「確認する」「補足する」など分かりやすく伝えるための具体的な方法を子どもが意識できるよう、発問や指示を工夫することが大切です。

### I 言語活動の工夫・改善に生かす

- ・ 学力調査の問題は、学習指導要領で求められている言語活動を、実際の授業場面の中で具現化して作成されています。例えば、①の例のように、小学校国語Bの問題を参考にして、言語活動を改善することが必要です。

### II 発問や指示の工夫・改善に生かす

- ・ 学力調査の問題は、実際の授業の中での発問等をイメージして作成されています。例えば、②の例のように、中学校国語Aの問題の選択肢を参考にして、発問や指示を改善することが必要です。

### III 評価問題として活用する

- ・ 学力調査の問題は、評価の観点を明確にして作成されています。同じ学習内容を扱う一単位時間や単元の評価問題として活用し、子どもの学習内容の定着状況を把握し、指導の改善につなげることが必要です。

## ④-2 全国学力・学習状況調査（算数・数学）を活用した授業改善を促進する！

### 全国学力・学習状況調査

- ◆ 調査問題は、学習指導要領に示されている内容を「問題」として具体化したもの
- ◆ 授業の中で、目標の実現のために展開される算数的活動や数学的活動を想定して作成されている

### 調査問題の活用

#### ① 平成27年度調査問題＜小学校算数A＞

1 次の問題に答えましょう。

計算の誤りを防ぐために見積りをする。  
(評価の観点は「知識・理解」)

(1)  $8.9 - 0.78$ のおよその答えとしてふさわしいものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 0.1      2 1      3 0.8      4 8

(2)  $5.21 + 0.7$ を、 $0.01$ をもとにした式に表します。 $5.21$ と $0.7$ は、それぞれ $0.01$ を何個集めた数になりますか。下の㊦、㊧に入る数を書きましょう。

5.21 + 0.7

㊦      ㊧

小数の計算を $0.01$ のいくつ分で捉え、整数の計算と同じように見る。  
(評価の観点は「技能」)

(3)  $6.3 + 0.22$ の答えを $6.52$ と求めました。この答えが正しいかどうかを、次のように確かめます。下の㊨、㊩、㊪に入る数を書きましょう。

㊨ - ㊩ = ㊪

計算の結果を確かめる。  
(評価の観点は「知識・理解」)

2 次の計算をしましょう。

小数の減法の計算をする。  
(評価の観点は「技能」)

(2)  $6.79 - 0.8$

#### ② 平成27年度調査問題＜中学校数学B＞

5 (2) 二人は、落とし物調査の結果について話し合っています。

拓也さん  
「落とし物の合計の平均値が20.3個から19.3個に減ったから、1回目より2回目の方が落とし物の状況はよくなったね。」

優香さん  
「でも、平均値だけで判断していいのかな。グラフ全体を見ると、よくなったとは言えないよ。」

グラフを見ると、優香さんのように「1回目より2回目の方が落とし物の状況がよくなったとは言えない」と主張することもできます。そのように主張できる理由を、優香さんが作ったグラフの1日目と2回目の調査結果を比較して説明しなさい。

拓也さんが作った表

|                                  | 1 回目 | 2 回目 |
|----------------------------------|------|------|
| 文房具                              | 201  | 212  |
| ハンカチ・タオル                         | 49   | 28   |
| その他                              | 55   | 50   |
| 落とし物の合計                          | 305  | 290  |
| 落とし物の合計の平均値<br>(1 学級あたりの落とし物の個数) | 20.3 | 19.3 |

優香さんが作ったグラフ

| 落とし物の個数 | 1 回目 (学級数) | 2 回目 (学級数) |
|---------|------------|------------|
| 0       | 1          | 0          |
| 1       | 0          | 1          |
| 2       | 0          | 0          |
| 3       | 0          | 0          |
| 4       | 0          | 0          |
| 5       | 0          | 0          |
| 6       | 0          | 0          |
| 7       | 0          | 0          |
| 8       | 0          | 0          |
| 9       | 0          | 0          |
| 10      | 0          | 0          |
| 11      | 0          | 0          |
| 12      | 0          | 0          |
| 13      | 0          | 0          |
| 14      | 0          | 0          |
| 15      | 0          | 0          |
| 16      | 0          | 0          |
| 17      | 0          | 0          |
| 18      | 0          | 0          |
| 19      | 0          | 0          |
| 20      | 1          | 2          |
| 21      | 2          | 3          |
| 22      | 3          | 4          |
| 23      | 4          | 5          |
| 24      | 5          | 6          |
| 25      | 6          | 7          |
| 26      | 7          | 8          |
| 27      | 8          | 7          |
| 28      | 7          | 6          |
| 29      | 6          | 5          |
| 30      | 5          | 4          |
| 31      | 4          | 3          |

### I 指導計画の工夫・改善に生かす

- ・ 学力調査の問題は、学習指導要領の内容を具体的な問題として示しています。例えば、①の例のように、小学校算数Aの問題を参考にして、単元の指導計画において、評価の4観点をバランスよく位置付けるなど、指導計画の工夫・改善に生かすことが必要です。

### II 言語活動の工夫・改善に生かす

- ・ 学力調査の問題は、実際の授業の中での言語活動をイメージして作成されています。例えば、②の例のように、中学校数学Bの問題を参考にして、目的を明確にした話し合いの場面を設定し、説明し合うなど、言語活動を工夫・改善することが必要です。

### III 評価問題として活用する

- ・ 学力調査の問題は、評価の観点を明確にして作成されています。同じ学習内容を扱う一単位時間や単元の評価問題として活用し、子どもの学習内容の定着状況を把握し、指導の改善につなげることが必要です。

#### 授業改善のメッセージ

「数と計算」領域では、計算練習を繰り返す指導を行うだけでなく、学習内容を確実に身に付けさせるために、「計算の結果を見積もること」、「計算の仕方を考えること」、「結果を振り返って確かめること」を関連付けて指導することが大切です。

#### 授業改善のメッセージ

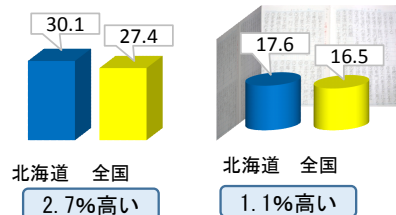
算数・数学では、  
①見出した事柄や事実を説明する（事柄・事実の説明）  
②事柄を調べる方法や手順を説明する（方法・手順の説明）  
③事柄が成り立つ理由を説明する（理由の説明）  
など、目的を明確にした言語活動を展開することが大切です。その際、例えば、この問題のように、事柄が成り立たない理由を説明させる発問も効果的です。

## ⑤ 家で、自分で計画を立てて勉強する子どもを育てる！

家で、自分で計画を立てて勉強している子どもの割合が、全国平均より高い。

【小学生】

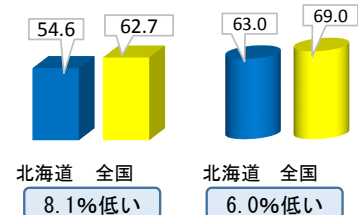
【中学生】



普段、1日当たり1時間以上勉強する子どもの割合が、全国平均より低い。

【小学生】

【中学生】



北海道の子どもは、計画を立てて勉強しているものの、他県の子どもと比べ、学習時間が短い！

家庭学習の内容や分量を見直しましょう！



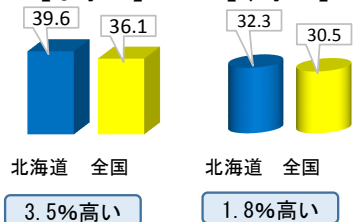
保護者と連携し、望ましい生活習慣を確立しましょう！

北海道の子どもは、テレビを見たりゲームをしたりする時間が長い！

普段、3時間以上テレビなどを見ている子どもの割合が、全国平均より高い。

【小学生】

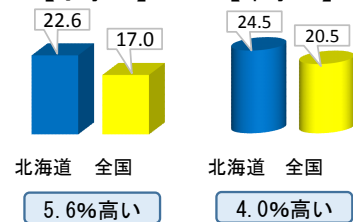
【中学生】



普段、3時間以上ゲームなどをしている子どもの割合が、全国平均より高い。

【小学生】

【中学生】



## 子どもの意欲を高め、家庭学習の習慣を定着させている取組例

### マイノートの取組

宿題に加え、生徒自身が課題に応じて家庭学習の内容を設定し、一日ノート1ページ程度の分量を学習して提出するようにしています。

生徒が家庭で取り組んできたノートを、月・木は学級担任、火は部活動顧問、水は教頭、金は校長と点検者を分担して、生徒を励ますコメントを記入し、教職員全体で生徒の意欲を高めています。未提出だったり取組が不十分だったりする生徒に対しては、当該の学年団が30分程度の放課後学習を実施しています。

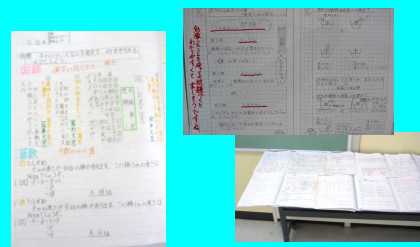
### 生徒の「マイノート」



### 家庭学習ノートの展示

効果的に家庭学習を進められるよう、工夫された家庭学習ノートにコメントを記入して、廊下に展示しています。

友達のノートを参考に、家庭学習を工夫する児童が増えています。



### 家庭学習プリントの活用

生徒自身が課題に応じて自分で家庭学習用のチャレンジテストや学習プリントを選択し、持ち帰ることができるようにしています。

